

## 幼稚園児の習い事と血圧及びカウプ指数の関連性

松本希 (幼児教育学科), 斎藤辰哉 (川崎医療福祉大学大学院),  
林聡太郎 (川崎医療福祉大学大学院), 吉岡哲 (香川大学), 山口英峰 (吉備国際大学),  
山根薫子 (幼児教育学科), 小野寺昇 (川崎医療福祉大学)

### The relationship between after-school lessons and blood pressure, Kaup index in kindergarteners

Nozomi Matsumoto(Department of Preschool Education),  
Tatsuya Saito(Graduate School, Kawasaki University of Medical Welfare),  
Sotaro Hayashi(Graduate School, Kawasaki University of Medical Welfare),  
Akira Yoshioka(Kagawa University),  
Hidetaka Yamaguchi(Kibi International University),  
Shigeko Yamane(Department of Preschool Education),  
Sho Onodera(Kawasaki University of Medical Welfare)

#### 抄 録

先行研究は、幼児の約4割が習い事をしており、年齢があがるごとに習い事をしている子どもの割合が増加すると報告している。そこで本研究は、幼児を対象に習い事の種類が幼児の血圧及びカウプ指数に及ぼす影響を明らかにすることを目的とした。対象者は、4歳(年中児)及び5歳(年長児)の幼稚園児111名とした。対象者に身長と体重の測定を行い、非強制的に血圧の測定を行った。加えて、対象者の保護者宛に習い事に関するアンケート調査を行った(回収率65.8%)。アンケート調査の結果から、習い事を運動系(スイミング等)・座位系(英会話、ピアノ等)・両方実施・習い事無の4群に分け、収縮期血圧、拡張期血圧及びカウプ指数を比較したところ、4群間に差は示さなかった。本研究の結果から、幼稚園児の習い事が収縮期血圧変化・拡張期血圧変化・カウプ指数変化に及ぼす影響に差がないと考えられた。

キーワード：幼児, 血圧, カウプ指数, 習い事

#### I. 緒言

血圧は加齢とともに増加する<sup>6)</sup>。子どもにおいても、成長とともに生理的に増加することがわかっている<sup>11)</sup>。しかしながら、幼児を対象とした血圧の報告は僅かである。日本高血圧学会の「高血圧治療ガイドライン2009」<sup>12)</sup>では、幼児においては健診用の高血圧基準(幼児：収縮期血圧 $\geq 120\text{mmHg}$ , 拡張期血圧 $\geq 70\text{mmHg}$ )が示されているのみであり、